

1 当院における東日本大震災時の感染対策
2 について
3 断水状態をどう乗切るか

4
5 ○中澤武司 西田香南 海宝まゆ子 麻生恭代
6

7 3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグ
8 ニチュード9.0の大地震が起き、岩手、宮城、福島、
9 そして茨城に甚大な被害をもたらしたが、浦安市で
10 は、今回の震災で、けがをされた方は数人いるもの
11 の、亡くなられた方はいなかった。しかし液状化に
12 による被害は甚大で、ライフラインが寸断され震災直
13 後の浦安の一般家庭では、手が洗えない・歯磨きで
14 きない・お風呂に入れない・ごはんができない・洗
15 濯ができない・トイレが流せない・ガスも使えない、
16 排水もできない状態が続いた。同様の現象は当然病
17 院内でも見られ、特に断水の影響が大きく大量の水
18 を使用する入浴や食器・医療器具の洗浄、検査では
19 自動機器の運用に制限がかかるため、回避するため
20 に職員一同多大な尽力を要した。また感染対策にお
21 いても同様に、対策の要である手洗いや洗浄などが
22 不徹底になり、院内伝搬予防に重大な影響を与える
23 ことが予想された。このような状況の中で、三次救
24 急及び周産期母子医療センターなど重症患者を抱え
25 ている当院での感染対策について、特に問題となっ
26 た断水に焦点を絞り、重症患者が多く入院する病棟
27 での感染対策を中心に、震災時の当院の状況と対応
28 について報告する。また震災では様々な物資の供給
29 が停止し、細菌検査でも一部の培地や試薬の供給が
30 一時停止した。震災時に細菌検査技師として如何検
31 査を維持するか、感染対策で何をして、何ができる
32 かについても考え、会場で討論を行いたい。

33
34
35
36
37

38 順天堂大学浦安病院 感染対策室
39 047-353-3111 (2110)